

運営推進会議記録

<p>開催日時</p>	<p>平成28年7月27日(水) 10時30分～11時30分</p>	<p>場所</p>	<p>洗心会 本部会議室</p>
<p>参加者</p>	<p>グリーンホーム施設長 木下(議長)、グリーンホーム生活相談員 古賀(晴)、ケアセンター・グループホーム管理者 佐藤(書記)、ケアセンター・グループホーム介護支援専門員 菊田、小山市高齢生きがい課 菅原様、高齢者サポートセンター桑絹 春田様、桑絹老人クラブ 岸本様、民生委員 大島様、グリーンホーム入居者家族 塩澤様、グループホーム利用者中田様、グリーンホーム利用者大蔵様 ※ケアセンター利用者家族 井澤様、ケアセンター利用者 松嶋様、グループホーム入居者家族 濱様は都合により欠席</p>		
<p>活動内容及び回数等 ※別紙 運営推進会議資料参照</p>			
<p>1. 開会あいさつ 木下) ただ今より、平成28年度第2回運営推進会議を始めます。</p> <p>2. 管理者あいさつ 木下) 平成28年度も4ヵ月経過した所で、洗心会としては8/6(土)に納涼祭が開催される予定となっております。品質方針の中にも地域社会の貢献という文言が謳われていますが、地域の活性化に少しでも繋がるよう職員一同一生懸命準備しておりますので、ご参加ご協力お願い致します。 また、昨日より神奈川県障害者施設の殺傷事件が大きく報道されている所ですが、洗心会もたくさん利用者様を抱えております。利用者様が安心して施設をご利用いただけるよう事業を展開していく為には、ここにお集まりの皆様のご協力が必要不可欠であると考えますので、ぜひこの機会に皆様からのご意見ご指導等いただけたらと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>3. 協議 1) サンフラワーグリーンホームの活動内容報告及び評価・助言等 木下) グリーンホーム運営推進会議資料読み上げにて説明 御意見・御質問等あれば宜しくお願い致します。</p> <p>大島) 看取りとありますが、看取りも対応しているんですか。 木下) 看取りといっても地域生活の延長という風に考えており、特別な事をするのではなく、自然な形で最後を迎えられるよう対応しています。</p> <p>大島) この、Bee House というのはどのようなものがあるんですか。 木下) はちみつを使ったメニューや、パンケーキ、カレーライス、スパゲティ等軽食を楽しむ事が出来ます。</p> <p>大島) 居室というのはどのくらいの広さなんですか。この事故に記載があるのは、自分でタンスを倒しちゃったんですかね。 木下) 大体8畳くらいの広さです。ベッド、洗面台があって、そこに自宅で使い慣れたタンスやテレビ、冷蔵庫等を持ちこんでいる方もいます。事故関連ですが、この時はご本人が不穏な状態で、床を這っていてタンスにつかまり、倒してしまったのではと推測されます。</p>			

2) サンフラワーケアセンターの活動内容報告及び評価・助言等

菊田) ケアセンター運営推進会議資料読み上げにて説明

御意見・御質問等あれば宜しく申し上げます。

岸本) 個人差はあるでしょうけど、薬を飲ませてどれくらいの時間で眠りにつくんでしょうか。

菊田) 定期的に泊まりを利用されている方に関してはケアスタッフが把握しているので、状況をみながら対応してくれています。飲んでも2、3時間眠れなくて何度もトイレを往復したり大声出す人もいれば、眠剤を飲んでフラフラするから服用時間を寝る直前にしましょうと言っても早く飲みたがり、夕食の薬を飲んで1時間もたないうちに飲みたがる方もいらっしゃいます。転倒した方はこの後者のケースの方で、このような状況が見られるので出来る限り寝る直前に服用出来るよう支援の工夫をしています。

岸本) 1人にかかりつきりという訳にはいかないと思うので、眠りにつけるよううまく内服をしてもらって。そうしないと早く薬飲んだからといっても、寝付けなくて時間がかかったりもしてしまいますよね。

菊田) 本来、薬の種類にもよりますが、大体服用して2時間ぐらいすると眠りにつけるんですが、この方の場合は気分的なものが大きくて、飲んだら納得する。しかし、服用後も寝るまでに何度もトイレに起きて往復するという方です。

佐藤) お薬を飲むと精神的に落ち着くのか、飲んで間もなく薬が効いてきた気分になるようで、歩いているとふらつきがみられている方です。

春田) 飲んで落ち着くのであれば、ふらつきのリスクを軽減させる為にフラセボではダメですか。

菊田) 主治医にも相談した事があるんですが、ただこの方の場合は今までの生活とか生活歴を考えると、無理でしょうという判断でした。

塩澤) 骨折した方は痛みとかは感じなかったんですか。うちの母も痛みの訴えがなかった為に日をおいてしまったのですが(結果骨折をしていた)

菊田) 大腿骨骨折だったのですが、じっとしていると痛みがないようでした。骨折の場所によって痛みの程度は違うようです。高齢者で認知症のある方は骨折していても痛みには気付かないケースがあるようです。外傷も腫れも見られませんでした。

3) サンフラワーグループホームの活動内容報告及び評価・助言等

菊田) ケアセンター運営推進会議資料読み上げにて説明

御意見・御質問等あれば宜しく申し上げます。

塩澤) 非常口の鍵は自分で開けて出られるのですか。

菊田) 2ヶ所鍵がついているのですが、2ヶ所ともに自分で開けてしまった。

佐藤) この出て行ってしまった方は、常に出てしまうわけではなく、この時はいつも飲んでる牛乳が無くなってしまい、家族に持ってきてほしいとの訴えがあったものの、ご家族が多忙な時期ですぐには来られないというのを事前に聞いていて、それをご本人に説明していたが、それでも納得されず、こういう結果になった所があります。その説明をもう少しゆっくり時間をかけて対応すればここまでにはならなかったのかなという所もあります。そこのポイントをおさえた支援をすれば回避出来たのではと思います。

大島) 買ってきてあげるといことは出来るのですか。

菊田) 普段はご家族が購入して買ってきています。こちらで対応も可能ですが、訴えが夜遅い時間だったので、どちらにしても翌日まで待っていただくという状況でした。

塩澤) 理解は出来るんですか。

菊田) その場の理解は出来るのですが、やはり認知症がある方が利用しているので、その理解を持続するのは難しいし、こだわりが強い方なので、食後の内服もそうですが、薬がもらえるまでずっと薬をくれと言っている状況もあります。

岸本) 完璧な対策というのはとれないですね。

佐藤) そうですね、それは難しいことですね。なるべく怒らないようにうまく話をしていけば、そこまで気持ちが高ぶらずに落ち着いていられるとは思いますが、とてもテクニックが必要だと思います。

4) 地域福祉推進の為の情報提供

・小山市高齢生きがい課

菅原) 事故に関して、具体的に対策を立てていただいていると思います。解決策がより具体的かどうかというのが焦点になってきますので、結構具体的な内容となっているようなので、引き続き継続していただいて、情報共有に努めていただければと思います。

相模原の事件ですが、老人施設ではありませんでしたが、夜間の時間帯の安全確保等を今一度点検していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。ストレスがかかる仕事ではあるかと思っておりますので、管理者の方は職員のストレスマネジメントを行い、様子を見ていってほしいです。

昨今、介護予防の概念に「フレイル (frailty : 虚弱)」とか「サルコペニア (sarcopenia : 加齢に伴う筋力の低下、または老化に伴う筋量の減少)」等の言葉が出てきて、保健師が先週に国の研修会に参加してきた所です。要するに、要介護状態に該当するのはどんな状態なのかということで、例えば体重が減少してくるというのがよくありますよね。あとは、疲れやすくなった、外出等がなくなってきて活動量が落ちてきた、歩く速度が急に遅くなってしまった、握力が弱くなってきた等のサインが出た時は身体的フレイルということで、虚弱のサインが出ているので気をつけましょう。そのような時には健康状態が悪化しやすいし、要介護状態になりやすい。総合事業で行っているチェックリストの中でそれが判断出来る様です。そういったものを活用してフレイルかどうかという判断して、それを踏まえて介護予防とかを考えていく必要があります。その他に社会的フレイルと精神的フレイルがあり、社会的に孤立しているというのは身体的フレイルが下にあり、そうすると活動が少なくなってきて心身機能がおとろえてきて、体重が減り、結果として虚弱になり要介護状態になってしまう。精神的フレイルは認知症やうつ病等により虚弱になっていく。こういった概念をもとに介護予防にあたりましょうという形ですすんでいます。

社会福祉法人の制度改革の研修会という事でうちの職員が本日にやっている所です。今一番言われている所は、「透明性の確保」です。今までは財務諸表での公表をやっていただいていたおりましたが、今度は法人の定款の閲覧等も行って下さいと変わってきており、社会福祉法人がどんな運用しているのかというのを外部に明らかにしていきましようという動きが出ています。来年度はさらに評議委員会の理事の事業活動を監視するような立場になるようで、評議委員の選任のしなおしがきっと必要になってくる。そうなる定款の変更等色々な手続きが必要

になってきますので、研修の情報を理解した上で情報提供をさせていただきたいと思います。

国保連の研修会があったんですけども、その中で苦情件数が増えているという報告がありました。平成27年度は、市町に対する苦情が187件、県に対する苦情が29件、国保連が60件で合計276件がありました。実際にはもっとあるかとは思いますが、平成26年度の時の前年比が205%、平成25年度は前年比300%、平成27年度は84%と下がってはいますが、全体的には苦情は増えている傾向です。杉並区の社会福祉法人緑風会という所が、元々厚生省の委託を受けて電話相談を行っているそうです。このホームページには、毎月相談の事例が載っていて、介護する方の事例がたくさん載っているようです。介護者の娘さんからの相談が圧倒的に多いようです。相談者は50代の方、介護を受けている方は80代～90代、認知症がある方、要介護1前後の方に関する相談が多い。介護者の身心の疲労に関する悩みが多く、1人で介護をしていて、他に兄弟がいても協力が得られないという相談がある。老老介護（高齢者同士）、認認介護（認知症高齢者同士）等の難しい問題も出てきている。

ホームヘルパーさんの料理や掃除に不満があるという相談も結構あるようです。それなので、ある程度料理の指導も必要だと思います。行政機関に望む事としては、話を聞いて欲しい、味方になってほしいという要望が圧倒的に多いようです。分かりやすく、プロに任せて安心したいという気持ちを汲んで相談に対応すべきだろうという話がありました。

苦情で多い所として、1位が特別養護老人ホーム、2位がグループホーム、3位が老人保健施設となっているようです。

守秘義務の問題で、地域包括ケアで地域の情報を共有しましょうという事になってきているが、一方で個人情報の事が「ケアマネジャーにしか言っていない事が、次の日に近所中に知られていた」というような問題も挙がってきていたようです。それなので、地域包括ケアに関わる方の問題点として難しい所があるようです。

今日の報告で各サービス苦情は0件という事でしたが、苦情があったとしても何が起きているのかを世間に発信していく事が必要だし、苦情は積極的に受け付けるべきだと思います。職員にもそのように周知していただければと思います。

・民生委員

岸本) 以前、亡き母を介護していた時期がありまして、今までの話を聞いて共感する部分が多々ありました。その経験からの話ですが、うちの母はわりと熱い風呂に入っていました。だいたい施設にいくと熱い風呂はダメだからぬるい風呂にいれられていたと思うんです。そしたら、悪寒で身体が震えてというのが何回かあったんです。だから、通り一遍ではなく個人に合った介護が必要なんじゃないかなと。それなので、施設が変わる時には、本人は熱い風呂が好みなので暑い風呂に入れて下さい、ぬるい風呂だと過去にこのようなことがあったので、もし事故があったらそこは納得しますのでと申し上げてお願いした事がある。それぞれの個人の特徴を把握して対応するのはなかなか難しい事ではあると思いますが、個別に対応が必要な人もいると感じたので参考にいただければと思います。

老人会についてですが、色々な呼びかけをして出てきてくれる人はいいいんですが、なかなか出てきてくれない人も多い。会には入って頂いているが、呼びかけで引っ張り出すというのが苦しんでいる所です。色んな企画をしてもなかなか出てきてくれない。地域の人が送り迎えすればひよっとしたらもう少し出てきてくれるのかもという気はするんですが、ただ、そういったときにもし事故があったら補償はどうするんだとなると、そこまで明確にするのは難しいの

かなと。個人の好意でという事で送迎をお願いするしかないとは思いますが、会としても色々楽しくやりたいとは思いますが、出てこない方に関しては引っ張り出すという所が課題になっています。

大島) 高齢の方だと足腰が弱くなるじゃないですか。そうすると行くまでがちょっとという人が多くなってきているようです。オーバスみたいなものがあれば行けるのかもしれないですけどね。

岸本) 納涼祭のボランティアの募集依頼が来ましたが、平均年齢でいうと80歳近い状況なので、16時から20時の長丁場のボランティアというのはちょっと酷な点があるので、申し訳ありませんが今年から辞退させていただきました。ジャガイモ堀りとかさつまいもとかの農園関係については、昼間の時間帯で1時間~1時間半程度なので、こちらについては継続的に協力させていただきたいと思えます。

・民生委員

大島) 色々な話が出てきて私の方からはそれほどないんですが、菅原さんから話があったように、私自身も体力の衰えを感じています。疲れだったり、握力だったり、脚力だったり劣ってきているので自分なりに健康管理をしている所です。皆さんはまだまだ心配ないとは思いますが、まずは自分の健康管理が1番でないと介護も出来ないの、そこをしっかりといただいて仕事に活かしてもらえればと思えます。

・高齢者サポートセンター桑絹

春田) 皆様からの貴重な意見がたくさんありましたので、私の方からは特にありません。

5) その他

①事例発表

・グリーンホーム

古賀) 平成28年度事例検討資料(報告1)読み上げにて説明

御意見・御質問等あれば宜しくお願いします。

木下) この事例に取り組んだ事により、ご家族から「まだ母はトイレに行けるんですね」という声も聞かれ、すごく安心された様子もみられましたし、今後施設としてもこれだけにとどまらず、QOL・ADLの向上に努めていきますとお伝えしました。また、事例を通して職員の介護技術の向上だったり、利用者の本位の介助という事で双方によりよい取り組みとなったと思えます。

菅原) まだ一部の施設とか病院では身体拘束を行っている所があるようですが、原則、介護保険の世界では身体拘束はなしとなっているので、取り組みとしてはうまく行って良かった事例だと思います。これが、解決策が見いだせなくて、職員も渋々(身体拘束)やってしまうとなると、モチベーションも下がってしまいますし、何となく悪い事をしているという気分になるし、解決に至らなくなってしまう可能性もあります。

佐藤) 確認ですが、この定時以外にも排便は見られていたんですか。

古賀) オムツの中に少量の排便があったようですが、弄便するまでには至らず、定時でしっかりと排便が見られていて、一定の効果があったようです。

・ケアセンター

菊田) 平成28年度事例検討資料(報告7)読み上げにて説明

御意見・御質問等あれば宜しく申し上げます。

菅原) このプログラムを考えたのはどなたなんですか。

菊田) これを考えたのは担当ケアスタッフです。足踏みとか腿上げ等はリハビリの先生から助言を受け組み込んでいきました。

菅原) 90代の方ですと、諦めている方が多くて難しいところですが、この方は筋力維持のプログラムが効いてきたというのがいい事だと思います。

菊田) 90歳を超えて、車椅子生活で、本人も諦めた言動が聞かれる所ではあります。ただ、自分で自分の事が出来なくなるのは辛いという意思表示をされているので、その事に対してはケアスタッフが関わってくれたことで良い結果が出たのだと思います。

6. 閉会

木下) 以上で、平成28年度第2回の運営推進会議を終了させていただきます。お忙しい中ありがとうございました。

事業所名	社会福祉法人 洗心会 サンフラワーケアセンター
------	----------------------------

記録作成日	平成28年8月14日
記録作成者	管理者 佐藤 誠